

～40号～2016年5月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考える団体です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

不登校情報センター

訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp (藤原) / 090-4953-6033(藤原)

不登校・ひきこもりの個別相談 行なっております

(予約制・ご相談料金3000円です。)

訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助) 説明日

◆5月22日(日) 13時～

(無料/保護者様対象で、お一人でも行います。/お子様の年齢10代～40代位)

皆様こんにちは、緑が爽やかな5月になりました。先月は熊本・大分で大きな地震がありました。日頃からどんな準備が必要なのだろうと真剣に考えられた事と思います。4月は、10代の子供にとっては入学・進学の時期でした。4月からは何とか学校へ行きたいと願う親の気持ちと、新しい環境の中に行けるかどうか不安でたまらない子供の気持ちが交差していました。4月になっても動けなかった子、なんとか登校した子、それぞれの1か月が過ぎて、どちらも精一杯の気持ちで乗りこえた1か月だったと思います。動けなかった子は、その時期が過ぎて少しだけほっとしているかもしれませんが、動けた子は、とても疲れているかもしれません。

不登校や、比較的年齢の低いひきこもりの人たちには、4月というのがとても高いハードルになっているのは確かのようなのです。

現在、私どもの事務所には、20代～40代のひきこもっていた人たちが、パソコンや、事務作業の就労支援に来ています。ほとんど社会的ひきこもりだった人たちです。最初は誰とも話せず、一人でパソコンに向かっています。緊張しながら、自分と似たような人たちの会話を背中で静かに聞いています。その内容に安心していつの間にか話の輪に入ってきます。最近、顔を見ないなと思ったら、また、ひきこもってしまった人、バイトをし出した人、それぞれの人にそれぞれの時期があり居場所があると思います。

4月から『訪問サポート・とかねっと親の会』を始めました

●不登校やひきこもりの我が子に、訪問サポートの形で誰かとつながりたい、かかわってほしいと望んでおられる御家族の方が対象の親の会です。今すぐは、会えなくても時間をかけてご一緒に考えていきましょう。

***日時:(第2回)5月15日(日)13時～15時30分**

***場所:不登校情報センター事務所 (JR総武線平井駅 南口徒歩5分)**

***参加費:お一人 500 円 *対象:親ご様 (お子様年齢10～30代)**

***予約制:(前日の17時まで) *少人数制(★お一人でも行きます)**

***予約先:[E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp](mailto:tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp)**

／090-4953-6033(藤原)

★1999年から、不登校情報センター訪問支援部門『トカネット』という名前で、大学生や社会人による不登校やひきこもりの人への訪問サポートを行っています。

他者とのつながりが少ない子どもたちの所に定期的に訪問してメンタルフレンド活動、及び、同行援助などを行っています。話し相手、遊び相手、外出などを通して友達のような関係をつくり信頼関係を築いていきます。

孤立してしまう時間が長くなると、益々外の世界とつながりづらくなってしまいます。まずは、家族以外に安心してかかわれる人を一人つくっていくことから考えていきましょう。

勇気を出して人とつながることで、楽しい、～がしたい、～がほしい、～へ行きたい…というようなプラスの感情が少しずつ生まれて、それが意欲や活動のエネルギーにつながっていきます。

でも、多くの、ひきこもっている人たちは他人に会いたがりません。それもふくめてご一緒に考えていきましょう～。

居場所ワークがこれからめざすもの

松田武己

14年前の2002年に「不登校情報センターを働ける場にしてください」という10人ほどの要望に「小遣い程度を得られる場にしよう」と答えて始まったのが、現在の居場所ワークです。

始まったころはポスティング（情報誌『ばど』配布など）やDM（学校案内書のダイレクトメール）の作業が中心でした。そのうち並行して進めていた不登校情報センターの学校や支援団体の情報提供サイト制作の役割が時間とともに大きくなりました。今ではほぼ情報提供サイト制作と運営だけになっています。

3年前からはサイト制作に必要な情報収集を事務作業として始めました。居場所ワークはサイト制作とその情報収集の事務作業の2つになりました。

その事務作業の内容も広がりつつあります。たとえば新分野の情報を集めようとするとき私はメンバーから意見を聞くことが多くなりました。そうすると事務作業グループが企画検討会になります。引きこもりなどを経験した当事者の意見はリアル感が違います。

2015年11月から全国の教育委員会あてに不登校への対応を情報提供依頼しました。このグループの意見を取り入れた依頼内容はよかったと思います。問いかけることが具体的であり、答えやすくなったのです。

サイト制作を始めて数年後から広告収入が得られるようになりました。情報センターとして収入を得、サイト制作にかかわる人にわずかですが作業費を支払う形をとりました。しかしサイト制作・運営で収益を得ることは難しい課題です。不登校情報センターがその最下段にたどり着いたのは、やっと数年前です。信頼性が高くきわめて規模の大きなサイトに成長しました。

それでも公的な支援は期待できません。いろいろな引きこもり支援団体が活動休止に追い込まれているなかで、このサイトを所有できたことは幸運です。

しかし、今のサイト制作の方法では当事者にとっては自分の収入源にはなりません。不登校情報センターのサイトを活用しながら、各自で収入を得られる運用方法を研究するのが現在の課題です。その研究中の具体例を挙げてみます。

(1) 当事者が独自に活用した最初は個人ブログです。不登校情報センターが運営するブログは無料使用できます。そしてブログを書く人が得られる収入（これも広告収入）の大部分を得られるようにしました。しかし、そのレベルで活用できているのはまだ2名にすぎません。収入はわずかです（商業運営のブログは無料で活用できますが、収入を得るレベルになるのは至難です）。

(2) 次も広告の一種ですがアフィリエイトと呼ばれます（有名なのはAmazon）。7、8年前に不登校情報センターが広告会社Amazonと契約しました。ここ数年は放置していましたが、昨年秋から活用を再開しました。これはまだ十分な収入レベルではありませんが貢献が期待できます。

当事者が独自に活用できるのは、この運用を別のアフィリエイト会社に応用する形です。契約すればその担当者の収入にできます。そうしながら運用のしかたを学ぶのです。不登校情

報センターのサイトは大きいのでそれが可能な状態です。

(3) パソコンのハード面に詳しい人がいます。以前から不登校情報センターのパソコンの管理や修理をお願いしています。ときおり協力者などから「パソコンの動きが遅い」などの話があり、出かけて行って点検・修理をしています。これはヘルプデスクという仕事です。この人の取り組みを個人バナー広告にしてサイト内の数か所に張り出しました。個人の活動をバナー広告の形で応援する“仕事づくり”です。

(4) 文通で相談活動をする人もいます。カウンセリングに近いもので、引きこもり経験を生かした取り組みです。この人の取り組みも個人バナー広告でサイト内に張り出しました。サイトに紹介している支援団体としてのカウンセラーのなかには、もともと引きこもりの人と思える人もいます。この人たちにも同様の個人バナー広告を案内し始めました。

(5) 以前に通所していた人でアクセサリ手作り作品を制作し、自作のホームページで販売をしている人がいます。この人にも個人バナー広告の案内をしています。販売上の手助けに利用してもらうのです。このタイプの人には他にもいると予想しています。

個人バナー広告は、引きこもり経験者によく表れる職業指向（カウンセリングなどの対個人サービス系、手芸などの創作活動系）を応援していく役割がみてとれます。

不登校情報センターのサイトへのアクセス数は毎日3000名くらいです。このレベルをさらに上げることが、これらの“仕事づくり”をめざす人への応援効果を高めます。そこでサイト全体の充実を不断に考えています（この部分は省略します）。

居場所ワークの特色は、居場所としての不登校情報センターの運営費を得ることと、参加する人の個人的な収入方法を連動させる点です。具体例を見てわかるとは思いますが、こういう形の引きこもりからの社会参加を進めているところは他に知りません。学校（職業訓練）型や福祉（社会保障）型に対して、私は自営（仕事づくり）型と理解しています。自分を生かす仕事づくりですが、これは独特な方法であり、これまではアピールするのをためらってきました。

しかも、現状は個人が収入を得る方法といってもこれから手掛けるもので、収入といってもわずかなレベルです。いきおい引きこもりからの自立の大部分は“戦場”ともいえる就職活動に向かいます。だがその結果は楽観できません。

いったん働きだしたのに、続かずに引きこもり生活に戻る人もいます。生きづらいままの生活に耐えている人もいます。就職型でなく個人が独自に収入を得る方法が願うのはこのような実例を多く見てきたからです。

その社会に就職（派遣やパート）やアルバイトなどで得た体験談を交流しあって互いに対応策を考えています。ときおり親の会などで参考意見として話し、非公式に集まり交流します。顔見知りになったとはいえ互いになじめない状態もあります。それでも苦楽を共にしてきた互いの経験が役立つ関係者です。

社会の変動は大きく、この数年は社会の側が引きこもりに近づいているみたいです。この仕事づくりタイプの活動をためらわずにアピールする時期がきたのです。似ているようでそれぞれ異なるまだら模様の体験者のつながりを生かして、不登校情報センターという居場所を社会に通用する方法を獲得する実地の試行錯誤の場にしたいわけです。これが居場所ワークの新しい形です。

◆今後のお知らせ

★大学生や社会人による、不登校やひきこもりの人への訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助)を1998年から行っています。

サポーターとか関わる事で、どのように学校や就労を含めた社会参加に繋がっていくのかを中心に、説明日及び親の会では具体的に話します。

(1) 訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助) 説明日

*日時: 5月 22日(日) 13時~ ★お一人でも行います。

(2) 訪問サポート・とかねっと親の会

*日時: 5月 15日(日) 13時~ *参加費お一人500円

*対象: 親ご様(お子様年齢10~30代) ★お一人でも行います。

(2) 不登校・ひきこもりの親の会

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと...など複数の専門家と一緒に考えていきます。

*日時: 5月 28日(土)、13時~。

*参加費: お一人500円。

*対象: 10代および20代の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」*「ひきこもり大学 in 下町」と一緒にあります。

*日時: 5月 8日(日)、13時~17時。*参加費: お一人500円。

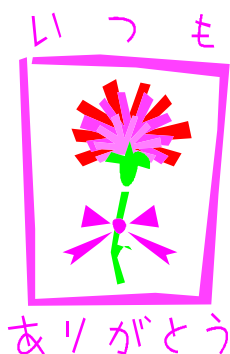
*対象: 30代以上のひきこもりのご家族・経験者・学びたい人。

*場所: JR総武線・亀戸のカメリアホール

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所: NPO 法人不登校情報センター(JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分)

◎地図は、下記のホームページ(URL)をご参照ください。



●不登校情報センター

●訪問サポート・トカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先・予約先

TEL/03-5875-3730/090-4953-6033(藤原)

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL/http://www.futoko.info/tokanet/